

NEWSLETTER

2012. 8. 30

of

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

2012 年度理事長就任

ごあいさつ

2012年度日本顎咬合学会理事長を拝命しました渡辺隆史と申します。

東日本大震災から一年半がたちました。津波や地震の被害を受けられた方や原発問題に直面している方々におかれましては、復興に向けた希望をもった生活をしていただけることを切に願っております。日本顎咬合学会も微力ながら、被災された会員や患者様のために、継続して支援に取り組んで参ります。

先の、6月9日、10日に行われました、日本顎咬合学会30周年記念大会におきましては、過去最大5,000名以上の参加者を得て、無事終了することができました。これもひとえに、ご参加いただいた皆様のおかげです。学会を代表して心より感謝申し上げます。30回大会では、念願の認定歯科技工士・認定歯科衛生士制度がスタートしました。そして、多くの新入会の会員の皆様を迎えることができました。歯科臨床はチーム医療です。歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士・その他のデンタルスタッフ全員が集まり研鑽できる、三位一体の学会として、さらに学術大会の充実をはかって参りたいと思います。

来る9月30日には第13回咬合フォーラムが開催されます。今年のテーマは「咬合平面の臨床的意義を探る」です。咬合平面は、咬合の安定を得るための重要な要素の一つです。3名の著名な先生が、日頃の臨床の疑問や悩みを解決します。ふるってご参加ください。

日本顎咬合学会は、設立30周年の節目を終えて、新たなステージへと向けてスタートしました。咬合はあらゆる臨床分野に通じています。日本顎咬合学会が30年かけて追求してきた臨床的なテーマをベースに、咬合の新たな可能性を探求していきたいと考えています。そして、時代が変化するなかで、何が患者利益のために重要なのかということ、考え続けていきたいと思っています。素晴らしい研究や最先端の器材があっても、臨床医がそれを具現化しなければ、患者利益には通じません。周囲に、まだ日本顎咬合学会を知らない方がおられましたら、是非一緒に勉強しようと声をかけてください。特に、将来の日本の歯科医療を背負っていくことになる、若い世代の歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士・学生の方には、一度日本顎咬合学会を覗いていただけるよう声をかけてください。志をともにする一人でも多くの同胞とともに、日本の歯科臨床の力を高めていきましょう。

本年度からのスローガンは「新・顎咬合学」です。

会員の皆様のさらなるご協力をよろしくお願い申し上げます。



渡辺隆史 略歴

- 1982年 城西歯科大学(現明海大学歯学部)卒業
- 1988年 福島県いわき市にて開業
- 1986年 Case Western Reserve University 歯学部 歯科矯正学講座ならびにUCLA 歯科矯正学講座客員教授・宮下邦彦先生に師事
- 1993年 UCLA 歯周病&インプラント研究会入会
UCLA 歯周病学講座教授・Henry H Takei 先生に師事
- 1996年 スタディークラブ「いいづな総合歯顎研究会:ITDC」主宰
- 2004年 UCLA 歯周病 & インプラント研究会 (UCLA-Kawazu STUDY CLUB) 会長
- 2012年7月1日
日本顎咬合学会理事長

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 ニュースレター No.70



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-8-2 山京半蔵門バレス 201
TEL: 03-6683-2069 FAX: 03-6691-0261

70

第13回咬合フォーラム 咬合平面の臨床的意義を探る！



座長：菅野 博康 先生(宮城県開業)

1965年 東京歯科大学卒業
福岡市 北歯科医院勤務
1968年 仙台市 すがの歯科医院開設
現在に至る

2012年9月30日(日)

東京国際フォーラム ホール B5
東京都千代田区丸の内 3-5-1 TEL: 03-5221-9000

プログラム

10:15 ~ 10:20 学術委員長挨拶 上田 秀朗 委員長(日本顎咬合学会副理事長)



●上田 秀朗 先生 略歴

1983年 福岡歯科大学卒業
福岡歯科大学口腔外科
第二講座研究生
1987年 北九州市小倉南区にて
開業
2007年 北九州市小倉北区に移転
2010年 福岡歯科大学臨床教授

日本顎咬合学会第13回咬合フォーラムが東京国際フォーラムで開催されることになりました。咬合平面とは皆さんご存知の通り「有歯顎者の下顎中切歯の切縁の接触点と、左右下顎第二大臼歯遠心頬側咬頭頂の3点によって決定される平面」のことです。

また、無歯顎者ではキャンベル平面(Campel plane:鼻下点から耳珠点を結んだ線、鼻聴導線)やHIP平面(上顎両側ハミュラーノッチと切歯乳頭を結ぶ平面)などの咬合平面に近いとされている平面を参考にして、仮想咬合平面を決定していきます。

では、臨床的に咬合平面を揃えるとはどういうことなのでしょうか? もちろん咬合平面が乱れたままだと顎関節に変位と過負担を蓄積することになるので、将来的に顎関節症を発症する可能性が高いことはいうまでもありません。また、ただやみくもに理想的な咬合平面を設定しても、それが生体と調和しなければ何の意味もありません。

そこで今回は、一昨年の「咬合高径」、昨年の「アンテリアガイダンス」をテーマとした流れの続きといたしまして、「咬合平面」をキーワードとして今井俊広先生には動的咬合と咬合平面とのかわり、松本勝利先生には生体と調和した機能的咬合平面の作り方、内藤正裕先生には咬合の全体像からみた咬合平面についてお話していただきます。3名とも全国的に著名な先生方ですので、是非とも明日からの臨床の参考にしていただきたいと思います。

最後になりましたが本学会開催にあたりまして、準備と運営にご協力いただきました日本顎咬合学会本部役員、事務局、学術委員会、関東甲信越支部の皆様、そして全国各地からお忙しい中お集まりくださる皆様に、心からお礼申し上げ、私からのご挨拶に代えさせていただきます。

10:20 ~ 11:50 動的咬合と咬合平面とのかかわり 今井 俊広 先生(鳥取県開業)



●今井 俊広 先生 略歴

1979年 奥羽歯科大卒業
1979年 原宿デンタルオフィス
勤務 山崎長郎先生に
師事
1984年 米国L.A.にてRaymond
L. Kim先生に師事
1987年 鳥取県米子市にて今井
歯科クリニックを開業
現在に至る

咬合平面を、平面という幾何学的に平坦な面にとらえるべきではないことは周知であろう。実際の咬合平面は“スピーの彎曲 (curbe of Spee)” “ウィルソンの彎曲 (curbe of Wilson)” に知られるように彎曲を呈している。正しい咬合平面では、臼歯に干渉がなく前方運動ができ、干渉のない側方運動ができる。言い換えれば咬合平面は、前方運動や側方運動などを伴う機能時に、歯、歯周組織、咀嚼筋、顎関節などの顎口腔系組織にメカニカルな負荷が加わらないような状態であるべき、ということになる。そして、これらの条件は、アンテリアガイダンスの状況にも関連される。過度の彎曲は問題を引き起こす可能性が高い。しかし、咬合平面の機能的な許容度は、アンテリアガイダンスの役割が適正になされていれば、寛容にとらえてよいのではないかと考えている。総義歯での人工歯配列では理想的な咬合平面を付与することは比較的容易であるが、有歯顎では上下顎歯の状況は一樣ではなく、理想的な咬合平面の付与に困難を来すことが多い。機能時に干渉のない状態で、隣接歯と一連に連なったなだらかな彎曲を得ることができれば、それぞれの患者が受容する状態には、柔軟性があるととらえている。この度は、上記についてまとめてみたい。

メンター

Dr. Raymond L. Kim
山崎 長郎 先生
本多 正明 先生

11:50 ~ 12:50 休憩

12:50 ~ 14:20 生体調和を考えた機能的咬合平面について 松本 勝利 先生(福島県開業)



●松本 勝利 先生 略歴
1987年 明海大学歯学部卒業
1989年 医療法人慈愛恵真会
あらかい歯科医院開業
1998年 GLOBAL DENTAL
SYSTEM 主宰

メンター
審美歯科修復 Douglas.A.Terry

歯科治療は最終的には咬合を治療していく治療であるといっても過言ではないと考えている。そしてこの咬合を付与する際に気をつけていなければならないことは、下顎運動時に咬頭・咬合干渉しないように下顎顆頭運動(ポステリアガイドランス)と前方歯における咬合誘導(アンテリアガイドランス)が調和を保ちながら、スピーの彎曲(curbe of Spee)およびウィルソンの彎曲(curbe of Wilson)に調和させ、患者固有の骨格型に調和させながら咬合を付与していかなければならない。

そして、生体における下顎運動は咬合器のように機械的な動きをするだけでなく、下顎の矢状クリステンセン現象や側方クリステンセン現象によるヨーイング、ピッチングを伴うため、前方運動や側方運動における咬合干渉は口腔内において調整を行うことが重要であるが、バーチカルストップの付与や、ある程度の咬合離開運動は咬合器上で行うことが重要である。この時に咬合器に付着する平面と咬合器上で設定する顆路角は臼歯部の離開量に影響を及ぼすために要注意である。

また、総義歯においては、患者固有の骨格型に加えて、臼歯部咬合平面は下顎で決定され、前歯部の咬合平面は上顎で決定されるため、咬合高径を咬合器上で決定した後に、咬合平面を設定する必要がある。

今回は、皆さんと、より生体調和する臨床的な咬合平面の在り方について一緒に考えていきたいと考えています。

14:20 ~ 14:30 休憩

14:30 ~ 16:00 咬合の全体像と咬合平面 内藤 正裕 先生(東京都開業)



●内藤 正裕 先生 略歴
1968年 日本大学歯学部卒業
1978年 内藤デンタルオフィス
開設
1990年 くれなる塾主宰

メンター
Robert Lee (Loma Linda)
Rudolf Slavicek

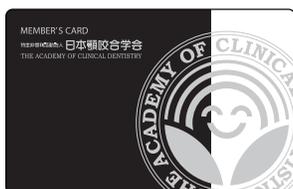
咬合には数多くの変数(variable)が存在する。まず骨格性のI級、II級、III級の分類が優先される。次に、現実の臨床では犬歯が歯牙単位でのI級、II級、III級関係なのかが重要である。これは臼歯の対咬関係でも同様であろう。また、特に下顎犬歯の舌側傾斜も大きな要素である。これらの変数は犬歯誘導のあり方に極めて強く影響する。

臼歯部で最も注目すべきは、基準面に対する咬合平面の三次元的な位置関係である。傾斜角度と、カーヴの度合いによっては理想的な臼歯の咬合が構成できない。カーヴの半径が小さければ咬合干渉が発生し易くなる。

半径が大きければ咀嚼効率は低下する。日常の臨床では必ずしも歯列矯正を受け入れられるとは限らず、幾らかの妥協をしながら、変更可能な変数に頼らざるをえない。

恐らく今井、松本両先生から多くの臨床例が提示されると思うが、私は臼歯の咬合支持と犬歯誘導の観点から咬合平面の理論的な考察をしてみたい。それはどこかでインプラントの咬合論とリンクするに違いないと信じている。

16:00 ~ 16:30 ディスカッション



会員カードを忘れずにお持ちください。

入場の際に出席を取らせていただきます。

※日本歯科医師会にご所属の先生は生涯研修登録ICカードをお持ちください。

第30回学術大会アンケート回答

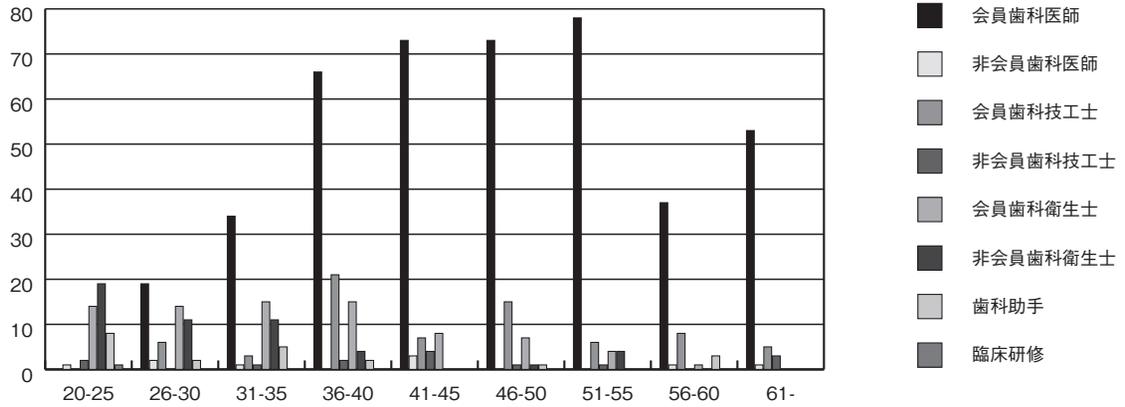
アンケート対象者 5,000名 回答者数：693名

毎年学術大会後、アンケートを実施しております。

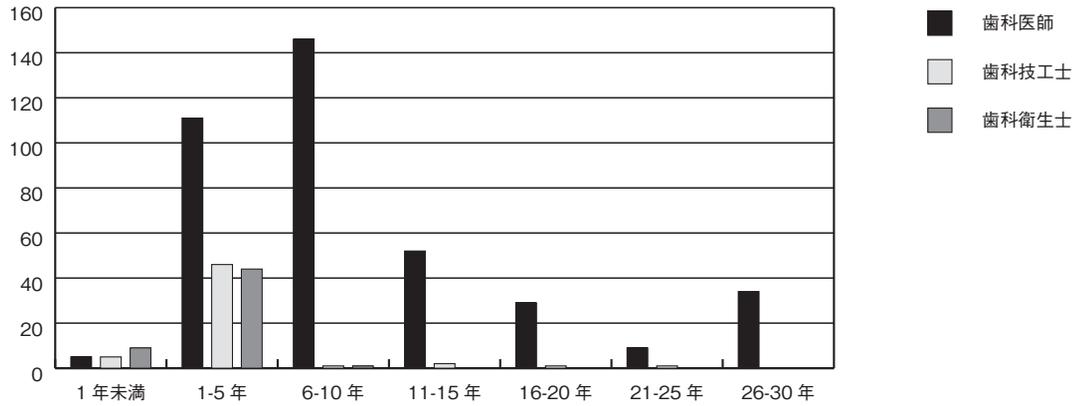
当アンケートについて、集計結果の一部をご報告いたします。また、貴重なご意見、データを今後、大会の運営、プログラム内容の価値と質のさらなる向上にむけ活用させていただきます。

お忙しい中、今回のアンケートにご協力いただいた方々につきましては、誠にありがとうございました。

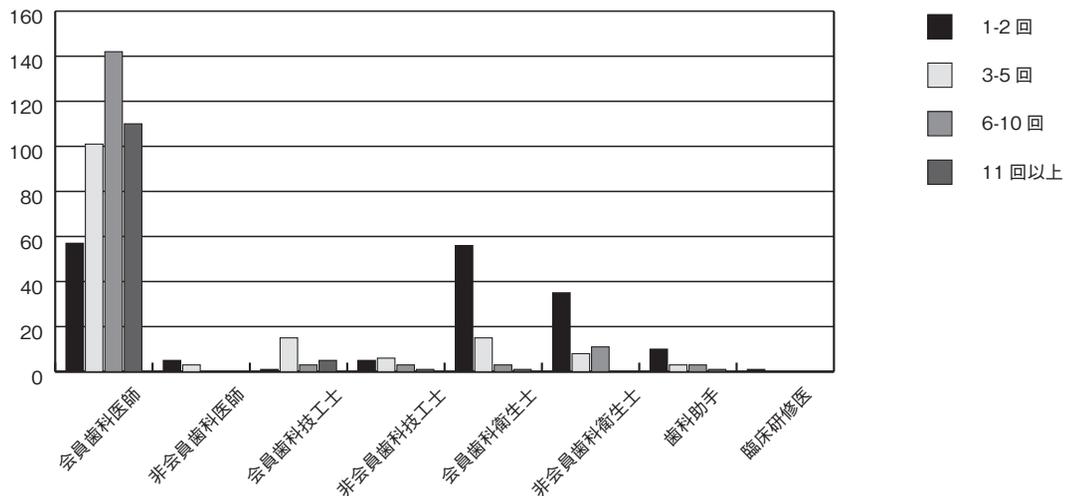
参加者年齢(カテゴリー別)



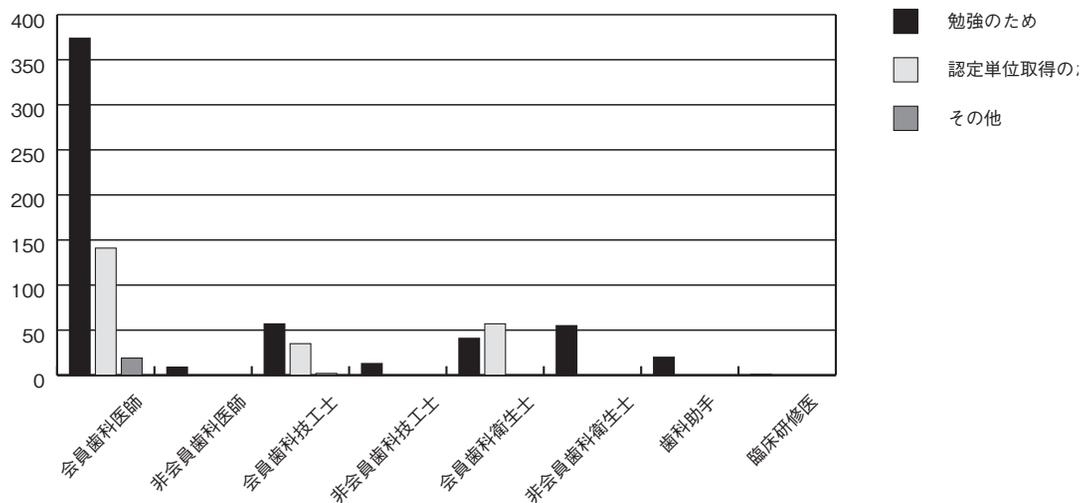
会員歴(カテゴリー別)



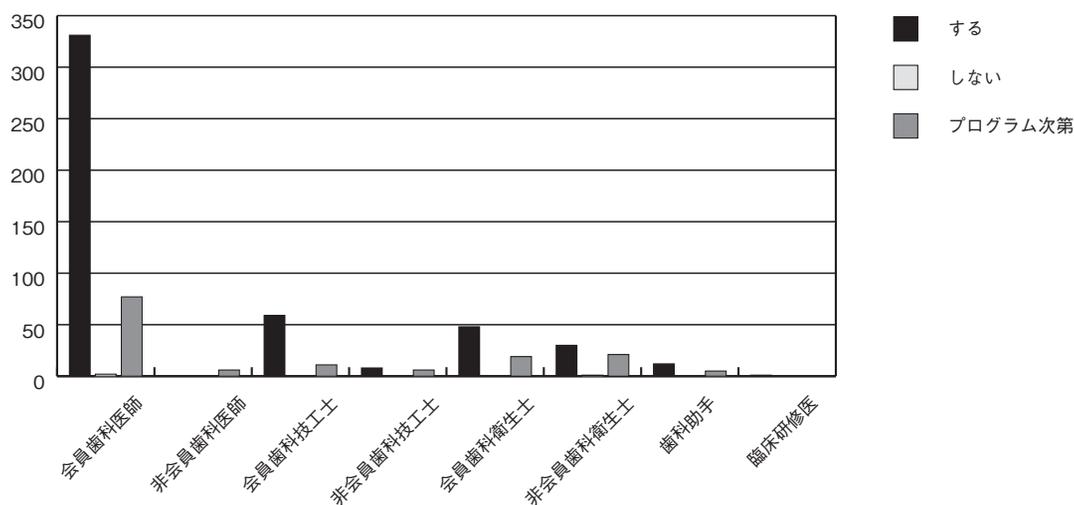
参加回数



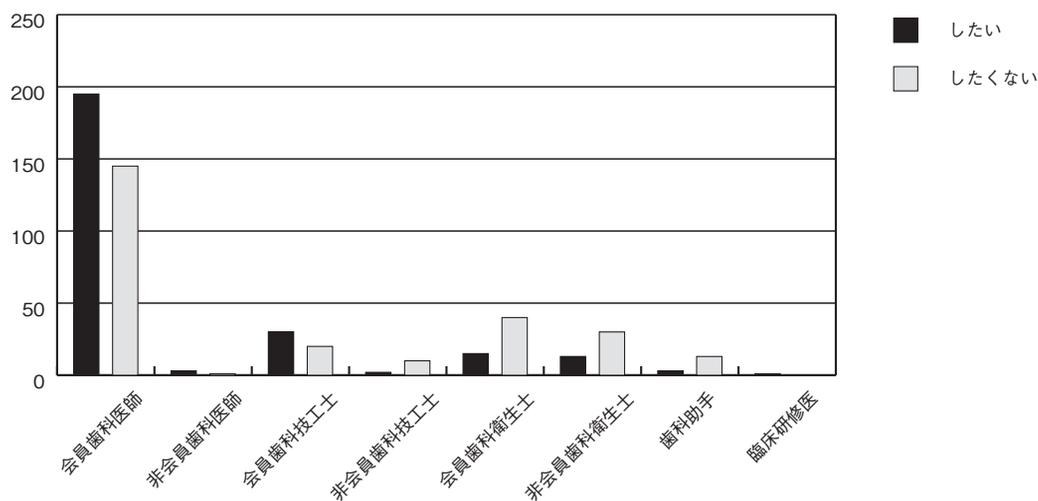
■ 参加の動機



■ 来年の参加



■ 自分の発表について



Informations

歯科衛生士，歯科技工士認定研修Ⅰを受講された皆様へ 今後のスケジュールのお知らせ

6月10日（日）に東京国際フォーラムのホールCで開催された認定研修Ⅰ（公開フォーラム）には多くの歯科衛生士，歯科技工士の皆様にご参加いただきました。

今後のスケジュールが決定いたしましたので，お知らせいたします。認定研修Ⅰに出席されて認定歯科衛生士・認定歯科技工士を目指されている皆様は郵送される申込用紙にてお申込みをお願いいたします。

◆歯科衛生士 認定研修Ⅱ・Ⅲ，認定試験のご案内

2013年 1月14日（月・祝）	福岡	福岡県歯科医師会館 視聴覚教室
3月3日（日）	名古屋	ジーシー名古屋営業所
3月20日（水・祝）	仙台	宮城県歯科医師会館 地下ホール
3月31日（日）	大阪	大阪 YMCA 国際文化センター
4月7日（日）	札幌	札幌国際ビル 8階B会議室
4月14日（日）	東京	JA 共済ビル コンファレンスホール

※スケジュール（各支部共通）

10：00～11：30 認定研修Ⅱ（歯科医師の先生による講義）

12：30～14：30 認定研修Ⅲ（歯科衛生士の先生による講義）

15：00～16：00 認定試験

原則はご所属の支部に参加していただきますが，ご予定が合わない場合にのみ他支部での参加も可能です。

◆歯科技工士 認定試験のご案内

実施日程：2013年4月7日（日）11：00～16：00

実施会場：JA共済ビルコンファレンスホール（東京都千代田区平河町2-7-9）

※歯科技工士の先生による事前講義，認定試験

◆合格発表 第31回日本顎咬合学会学術大会（2013年6月29日，30日）

平成 24 年度 認定医検定試験結果

実施日時：平成 24 年 4 月 22 日(日) 10:50～17:00

実施会場：日本歯科大学 受験者数：182 名

今年度の認定医検定試験が 4 月 22 日(日)に日本歯科大学で実施されました。その後、5 月 14 日(月)の認定審議会・認定審議運営委員会の合同委員会において厳正な採点が行われ、その結果は 6 月 8 日(金)開催の理事会で審議され、合格者 162 名が今年度の新たな認定医として承認されました。

下記の先生は 100 点満点の成績でした。新たに認定医になられた先生方の健闘を讃えるとともに、今後のご活躍を期待しております。
(認定審議会委員長 平井 順)

【100点満点合格者】(敬称略) 坂田 晋也(愛媛県)

第 22 回日本歯科医学会総会に参加しよう！

日 時：2012 年 11 月 9 日～11 日

会 場：インテックス大阪

第 22 回日本歯科医学会総会HP：<http://www.jads.jp/22ndGM/index.html>

日本顎咬合学会の会員が第 22 回日本歯科医学会総会で講演を行いますので、是非会場に足をお運びください。

※日本顎咬合学会分科会プログラムに参加した場合は、10 単位が取得出来ます。会員カードをお持ちいただき、分科会プログラム会場前(11 月 11 日(日) 14:00～17:00 の間)に申請にお越しください。事後の単位申請は認められません。

● プログラム

【日本顎咬合学会認定分科会】

会 場：インテックス大阪 2 号館 ブースD

日 時：11 月 11 日(日) 14:00～17:00

演 題：ライフステージに応じた口腔機能回復で幸せな人生を過ごす。

座 長：渡辺 隆史

演 者：上濱 正，増田 純一，河原 英雄

【テーブルクリニック】

会 場：インテックス大阪 2 号館

演 者(ブース番号順)：

T 012 相宮 秀俊 11 月 10 日(土) 9:00～12:00

T 013 南 清和 11 月 10 日(土) 9:00～12:00

T 015 松島 正和 11 月 10 日(土) 9:00～12:00

T 016 永井 省二 11 月 10 日(土) 9:00～12:00

T 019 佐藤 勝史 11 月 10 日(土) 14:00～17:00

※ 3 時間の内で 3 回の講演があります。

【ポスターセッション】

会 場：インテックス大阪 2 号館

演 者(ポスター番号順)：

P 075 平岩裕一郎 11 月 10 日(土) 12:30～13:30 質疑応答

P 128 須呂 剛士 11 月 10 日(土) 12:30～13:30 質疑応答

P 132 櫻井 健次 11 月 10 日(土) 12:30～13:30 質疑応答

P 137 松崎 浩成 11 月 10 日(土) 12:30～13:30 質疑応答

P 310 貞光謙一郎 11 月 11 日(日) 12:30～13:30 質疑応答

P 314 久保 達也 11 月 11 日(日) 12:30～13:30 質疑応答

P 315 加藤 泰二 11 月 11 日(日) 12:30～13:30 質疑応答



会員カード発行のお知らせ

平成 24 年度より会員カードを発行しております。学術大会・研修会・研究会などの受付手続きや単位申請(申請方法は会によって異なります)に必要なとなりますので開催時には必ずご持参頂きますようお願いいたします。

学会ホームページの「WEB 会員システム」をご利用ください

- ・勤務先・自宅・お届け先などで登録内容の確認・変更
 - ・認定資格・単位取得状況の確認
 - ・年会費のお支払(カード決済)、お支払状況の確認
- ※コンビニ・郵便振替をご希望の方は事務局までご連絡ください

- ・平成 24 年度の年間会費の納入がまだお済みでない方は、至急お振込みをお願いいたします。
- ・過去に未納分がございますと、認定試験、認定医の更新、学術大会への参加ができませんのでご注意ください。
- ・学会からの発送物は郵便及びメール便を利用しています。メール便の場合は転送されませんのでお届けできない場合がございます。勤務先の変更、転居等登録内容に変更が生じた場合は、至急変更のお手続きをお願いいたします。
- ・「WEB 会員システム」のご利用には、会員 ID (会員 No) とパスワードが必要です。ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。

平成 24 年度 各支部の事業予定

(自 平成 24 年 4 月 1 日～至 平成 25 年 3 月 31 日)

支部名	区分	開催日	会場	内容、講師等
北海道	認定医教育研修会	平成 24 年 11 月 18 日 (日)	北海道歯科医師会館	テーマ:「咬合・咀嚼が創る健康長寿」を基礎と臨床の立場から解析する 山田 好秋 教授 (新潟大学大学院総合研究科口腔生理学分野) 小林 義典 教授 (日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第一講座)
	支部学術大会	平成 25 年 3 月 3 日 (日)	北海道大学歯学部講堂	テーマ:「咬合・咀嚼が創る健康長寿」を基礎と臨床の立場から解析する 山田 好秋 教授 (新潟大学大学院総合研究科口腔生理学分野) 小林 義典 教授 (日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第一講座)
東北	認定医教育研修会	平成 24 年 9 月 9 日 (日)	宮城県歯科医師会館	特別講演:大畑 昇 先生 (北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座リハビリ補綴学教室教授) 一般口演 (予定)
	支部学術大会	平成 24 年 11 月 3 日 (土)	宮城県歯科医師会館	特別講演:渡辺 隆史 先生 (福島県開業) チーム医療企画:村上 恵子 先生 (歯科衛生士) 一般口演:8 題
関東甲信越	認定医教育研修会	平成 24 年 9 月 16 日 (日)	日本青年館 中ホール	テーマ:「咬合・咀嚼が創る健康長寿」を基礎と臨床の立場から解析する 山田 好秋 教授 (新潟大学大学院総合研究科口腔生理学分野) 小林 義典 教授 (日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第一講座)
中部	認定医教育研修会	平成 24 年 10 月 7 日 (日)	名古屋国際会議場	テーマ:「咬合・咀嚼が創る健康長寿」を基礎と臨床の立場から解析する 山田 好秋 教授 (新潟大学大学院総合研究科口腔生理学分野) 小林 義典 教授 (日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第一講座)
	支部学術大会	平成 24 年 12 月 2 日 (日)	名古屋国際会議場	基調講演:今井 俊広 先生 (鳥取県開業) 会員発表
近畿中国四国	認定医教育研修会	平成 24 年 12 月 9 日 (日)	大阪 YMCA 国際文化センター	テーマ:「咬合・咀嚼が創る健康長寿」を基礎と臨床の立場から解析する 山田 好秋 教授 (新潟大学大学院総合研究科口腔生理学分野) 小林 義典 教授 (日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第一講座)
	支部学術大会	平成 24 年 9 月 9 日 (日)	大阪国際交流センター	基調講演:若林 健史 先生 会員発表 4 題を予定
九州沖縄	認定医教育研修会	平成 24 年 7 月 22 日 (日)	福岡国際会議場	テーマ:「咬合・咀嚼が創る健康長寿」を基礎と臨床の立場から解析する 山田 好秋 教授 (新潟大学大学院総合研究科口腔生理学分野) 小林 義典 教授 (日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第一講座)
	支部主催認定医教育研修会	平成 25 年 2 月 10 日 (日)	沖縄県歯科医師会館 4 階講堂	未 定
	支部学術大会	平成 24 年 11 月 23 日 (金・祝)	福岡県歯科医師会館 大ホール	基調講演:吉永 修 先生 (熊本県開業) 一般口演:7 題を予定